



馬耳東風

昨年の12月29日、中国の武漢市で発生が報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、3カ月余でほぼ全世界に拡散した。COVID-19一色の状況の中で本件について考えを述べるのは不適切かも知れないが、敢えて取り上げてみた。150nm足らずのウイルスによる感染症が未曾有の速さで拡散した原因は大量の人・物資が短時間で世界中を移動する事以外には考えられない。活発な経済活動の負の側面が出た訳だが、正直なところこれ程深刻になるとは思っていなかった。COVID-19の伝播を防ぐための防疫対策は科学的合理性に基づいてとられるべきであるが、今回の世界的伝播を許した要因として、政治的・経済的合理性が優先されたためとの指摘がある。1月15日に国内初の感染者が確認されて以来、感染者総数は増加を続け、3月25日以降、関東・関西圏を中心に急カーブで増加している。毎日、報道される感染者・死者数の推移が下降する日を固唾を呑んで見守っている。感染拡大を阻止するために緊急事態宣言が4月7日に7都府県、16日には全国に拡大発令された。終息時期が読めず、さらにこの状態が続くと考えると社会・経済に及ぼす影響は予想できないほど大きなものになりそうな予感がする。

獣医伝染病学の分野では鶏の伝染性気管支炎、豚の伝染性胃腸炎、豚流行性下痢など多くのコロナウイルス感染症が知られており、その対策に多くの精力が注がれている。伝播力が非常に強いコロナウイルス感染症は、いわゆる空気感染によって短期間で農場間を伝播する。マ

スコミではCOVID-19は主に飛沫と接触感染で伝播することから、手洗いと濃厚接触を避ければ防げると報道されているが、いわゆる空気感染に対するリスクを過小評価しているのではないかと危惧している。クルーズ船、病院、介護施設などで集団感染が起こっているのはその証拠であろう。

実験動物室、微生物系研究室などでは病原体汚染を防ぐためには、実験操作に加えて、空気調整システムを通じた拡散を防ぐことが非常に重要である。これらの施設では通常、ブロック毎に独立したシステムでウイルスを除去できる装置を通して、新鮮空気を給気・汚染空気を排気できる構造になっている。

一般的に、宿主にとって新しいウイルス感染症が出現した場合、初期段階では病原性は強いが、その時期を過ぎてウイルスが宿主に馴化する段階になるとウイルスが弱毒化し宿主と共生状態になると考えられている。COVID-19もいずれ弱毒化し、風邪の種となるであろうが、その時期はまだ先であろう。現在、感染者総数の多い国間で致死率に大きな差が見られるが、必ずしも医療水準を反映したものではないと思われ、これが何を意味するのか解らない。最近、毎年のように地球温暖化による気候変動が原因と考えられている酷暑・豪雨・大型台風などの自然災害が発生している。同時に多くの新興・再興感染症が出現しているが、その要因にも地球温暖化に伴う生態系の深刻な変化があると思われる。ウイルスに限らずさまざまな病原体との戦いに終わりはないように思われる。

(青)